

「メシアの埋葬」

ヨハ 19 : 31~42

1. はじめに

(1) 文脈の確認

①福音の三要素が展開されて行く。

*キリストの死

*埋葬

*復活

②埋葬は、「メシアの辱め」の最後の段階である。

③次に、「メシアの高揚」が来る。

(2) ユダヤ的時間の確認

①木曜の日没後、イエスは弟子たちと過越の食事を食した。

②金曜の午前9時、イエスは十字架にかけられた。

・祭司長たちは、同じ時間に過越の子羊をほふった。

③金曜の午後3時、イエスは息を引き取った。

・この日は、種なしパンの祭り(7日間続く)の第1日目である。

(3) A. T. ロバートソンの調和表

§ 167 イエスの遺体はアリマタヤのヨセフの墓に葬られる。

マコ 15 : 42~46、マタ 27 : 57~60、ルカ 23 : 50~54、ヨハ 19 : 31~42

2. アウトライン

(1) イエスのわき腹が槍で刺される (31~37 節)

(2) イエスの遺体が墓に葬られる (38~42 節)

3. 結論 :

(1) 出 12 : 46

(2) ゼカ 12 : 10

(3) イザ 53 : 9

(4) 埋葬の神学的意味

メシアの埋葬の意味について考えてみよう。

I. イエスのわき腹が槍で刺される

1. 31 節

Joh 19:31 その日は備え日であったため、ユダヤ人たちは安息日に(その安息日は大いなる日であったので)、死体を十字架の上に残しておかないように、すねを折ってそれを取りのける処置をピラトに願った。

(1) 「備え日」とは、ユダヤ人の用語である。

①安息日のために備えをする日＝金曜日

(2) 十字架刑の方法

①ローマ人たちは、死体をそのまま放置し、野獣や鳥に食わせる。

・まっとうな埋葬をしないことは、十字架刑の一部である。

②ユダヤ人たちは、十字架につけられた者の遺体は汚れていると考える。

・そのまま放置すれば、町が汚れる。

・特に、安息日に町が汚れることは容認できない(申21:22~23)。

・しかも、この安息日は「大いなる日」(過越の祭りの期間)であった。

(3) ユダヤ人たち、罪人の死期を早め、すぐに遺体を取り除けるようピラトに願った。

①すねを折るのは、死期を早めるためである。

②ショック死、出血死、窒息死

③数か所の骨を折ったと思われる。

④もし、すねを折らなければ、数時間から数日間、生き延びた。

(4) パリサイ人たちの偽善

①イエスを十字架につけるといふ罪を犯しながら、儀式的な汚れにこだわる。

2. 32~34 節

Joh 19:32 それで、兵士たちが来て、イエスといっしょに十字架につけられた第一の者と、もうひとりの者とのすねを折った。

Joh 19:33 しかし、イエスのところに来ると、イエスがすでに死んでおられるのを認めたので、そのすねを折らなかった。

Joh 19:34 しかし、兵士のうちのひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した。すると、ただちに血と水が出て来た。

(1) 兵士たちは、イエス以外の2人の罪人のすねを折った。

①つまり、彼らはまだ生きていたのである。

②十字架上で、6時間以上も苦しんでいた。

③当然、彼らはすぐに死んだであろう。

- (2) イエスはすでに死んでおられた。
 - ①もはや、すねを折る必要はない。

- (3) 確認のために、兵士のうちのひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した。
 - ①血と水が出て来た。
 - ②さまざまな解釈がある。
 - ③血は聖餐式、水は洗礼式の象徴であるという解釈は、比喩的解釈である。

3. 35～37 節

Joh 19:35 それを目撃した者があかしをしているのである。そのあかしは真実である。その人が、あなたがたにも信じさせるために、真実を話すということをよく知っているのである。

Joh 19:36 この事が起こったのは、「彼の骨は一つも砕かれない」という聖書のことばが成就するためであった。

Joh 19:37 また聖書の別のところには、「彼らは自分たちが突き刺した方を見る」と言われているからである。

- (1) 目撃者はヨハネである。
 - ①彼は、イエスの肉体的死は実際に起こったことを証言している。
 - ②彼は、この出来事と2つのメシア預言を関連づけている。
 - ③つまり、イエスはメシアであるという論証を行っているのである。

II. イエスの遺体が墓に葬られる

1. 38 節

Joh 19:38 そのあとで、イエスの弟子ではあったがユダヤ人を恐れてそのことを隠していたアリマタヤのヨセフが、イエスのからだを取りかたづけたいとピラトに願った。それで、ピラトは許可を与えた。そこで彼は来て、イエスのからだを取り降ろした。

- (1) マタ 27 : 57

Mat 27:57 夕方になって、アリマタヤの金持ちでヨセフという人が来た。彼もイエスの弟子になっていた。

- ①アリマタヤのヨセフは、サンヘドリンの議員で、金持ちであった。
- ②イエスの弟子になっていたが、ユダヤ人を恐れてそれを隠していた。
- ③「神の国を待ち望んでいた」(マコ 15 : 43)
- ④アリマタヤは、エルサレムの北西約 35 キロにある町。

(2) 彼は、イエスのからだのとりかたづけをピラトに願った。

- ①これがなかったら、ユダヤ人がからだを取り外し、城壁の外に投げていた。
- ②アリマタヤのヨセフにとっては、自分になんの利益もない危険な行為である。
- ③ピラトは許可を与えた(恩赦)。彼なりのユダヤ人に対する抵抗である。
- ④埋葬は、時間がないので、大急ぎで行う必要があった。

2. 39～40 節

Joh 19:39 前に、夜イエスのところに来たニコデモも、没薬とアロエを混ぜ合わせたものをおよそ三十キログラムばかり持って、やって来た。

Joh 19:40 そこで、彼らはイエスのからだを取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従って、それを香料といっしょに亜麻布で巻いた。

(1) ニコデモの登場

- ①ヨハネの福音書の読者は、「前に、夜イエスのところに来た」人物を覚えている。
- ②彼は、没薬とアロエを混ぜ合わせたものを持って来た。
 - *恐らくパウダー状であろう。
 - *30キログラムとは、莫大な量である。
- ③彼もまた隠れ信者であったが、自らの信仰を表明した。

(2) 通常のユダヤ式埋葬法は、からだを洗い、没薬を用いながら亜麻布で巻く。

- ①ここでは、没薬とアロエを混ぜたものが使用されている。
- ②亜麻布は、複数形である。
- ③トリノの聖骸布は、偽物である。

3. 41～42 節

Joh 19:41 イエスが十字架につけられた場所に園があって、そこには、まだだれも葬られたことのない新しい墓があった。

Joh 19:42 その日がユダヤ人の備え日であったため、墓が近かったので、彼らはイエスをそこに納めた。

(1) イエスが埋葬された墓

- ①ゴルゴタに近い墓で、墓地ではなく、園にある墓である。
- ②だれも葬られたことのない新しい墓である。
- ③マタ 27:59～60

Mat 27:59 ヨセフはそれを取り降ろして、きれいな亜麻布に包み、

Mat 27:60 岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。墓の入口には大きな石をころがしかけて帰った。

・これは、ヨセフの墓である。

・これは、金持ちの墓である。

④それを見ていたのが、マグダラのマリアとほかのマリアである。

結論：

1. 出 12 : 46

Exo 12:46 これは一つの家の中で食べなければならない。あなたはその肉を家の外に持ち出してはならない。またその骨を折ってはならない。

(1) ヨハネは、イエスが過越の子羊としての死を遂げたことを伝えている。

(2) 詩 34 : 20

Psa 34:20 主は、彼の骨をことごとく守り、その一つさえ、碎かれることはない。

①イエスの死は、メシア預言の成就である。

2. ゼカ 12 : 10

Zec 12:10 わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。

(1) メシアは突き刺される。

(2) 終わりの日に、ユダヤ人たちはそのメシアを仰ぎ見、救いに入る。

(3) 黙 1 : 7

Rev 1:7 見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。

①救われたユダヤ人たちが、再臨のメシアを見る。

3. イザ 53 : 9

Isa 53:9 彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかったが。

(1) 受難のしもべであるメシアが、最後は金持ちの墓に葬られた。

4. 埋葬の神学的意味

(1) 埋葬は、「福音の三要素」のひとつである。

①埋葬は、イエスの辱めの最後であり、復活のための舞台でもある。

(2) イエスの死は、メシア預言の成就である。

①神は、イエスがメシアであることを証明された。

(3) ヨハネが「血と水」に言及した理由は、イエスの肉体的な死の確認である。

(4) 当時、論駁する必要のある異端が存在していた。

①グノーシス主義

- ・物質と霊の二元論に特徴がある。
- ・物質は悪であり、霊は善である。
- ・神の子が肉体を持つはずがない。

②ドケチズム

- ・イエスが肉体を持っていたことを否定する説
- ・イエスの人間としての歩み(死も)は、人間の目にそう見えただけである。

(5) イエスは、死んで葬られる私たち信者と一体になってくださった。

①それゆえ、イエスの復活は私たちの体験ともなるのである。

(6) ニコデモの信仰(ヨハ3:14~15)

Joh 3:14 モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。

Joh 3:15 それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです」

- ①彼は、イエスが上げられたことを認識した。
- ②彼は、イエスがメシアであることを信じた。
- ③彼は、メシアにあって永遠のいのちを得た。
- ④永遠のいのちが、行動として外に現れた。

「墓の封印」

マタ 27 : 61~28 : 1

1. はじめに

(1) 文脈の確認

①福音の三要素が展開されて行く。

*キリストの死

*埋葬

*復活

(2) ユダヤ的時間の確認

①木曜の日没後、イエスは弟子たちと過越の食事を食した。

②金曜の午前9時、イエスは十字架にかけられた。

・祭司長たちは、同じ時間に過越の子羊をほふった。

③金曜の午後3時、イエスは息を引き取った。

・この日は、種なしパンの祭り(7日間続く)の第1日目である。

④金曜の日没前に、イエスは埋葬された。

⑤土曜日(安息日)に、墓に封印がされた。

⑥日曜日(安息日が明けると)、女たちが行動を開始した。

(3) A. T. ロバートソンの調和表

§ 168 イエスの墓を見張る女たち

マコ 15 : 47、マタ 27 : 61~66、ルカ 23 : 55~56

§ 169 イエスの墓を訪問する女たち

マコ 16 : 1、マタ 28 : 1

2. アウトライン

(1) 女たち

(2) 祭司長とパリサイ人たち

(3) ピラト

(4) 女たち

3. 結論 :

(1) 三日目の復活

(2) 復活の神学的意義

メシア復活のための舞台設定について考えてみよう。

I. 女たち

1. 61節

Mat 27:61 そこにはマグダラのマリヤとほかのマリヤとが墓のほうを向いてすわっていた。

(1) マコ 15:47

Mar 15:47 マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、イエスの納められる所をよく見ていた。

- ① マグダラのマリア
- ② ヨセの母マリア (クロパの妻マリア)

(2) 彼女たちは、アリマタヤのヨセフとニコデモが去った後も、そこに残った。

- ① 彼女たちは、墓の番をしていた (安息日でなければ、徹夜をしたらろう)。
- ② 彼女たちは、イエスの復活を予期していなかった。
- ③ 安息日は休んで、その翌日、墓に来ようとしていた。
- ④ イエスの埋葬を完全に行うためか、自分たちも何かしたいと思った。

(3) ベタニヤのマリアがいない。

- ① 彼女は、イエスのそばに座って教えを聞いていたことがある。
- ② 彼女は、すでにイエスのために「埋葬の準備」を終えていた。

II. 祭司長とパリサイ人たち

1. 62節

Mat 27:62 さて、次の日、すなわち備えの日の翌日、祭司長、パリサイ人たちはピラトのところに集まって、

(1) 次の日、つまり、安息日である。

- ① 女たちは休んでいる。
- ② 祭司長、パリサイ人たちは、活発に動いている。
 - ・ イエスを墓に閉じ込めたままにしておくことに深い関心を払っている。
 - ・ 彼らの「敬虔さ」とは、自分に都合のよいものである。
- ③ 彼らは、ピラトのところに集まり、ある要求を出す。

2. 63 - 64節

Mat 27:63 こう言った。「閣下。あの、人をだます男がまだ生きていたとき、『自分は三日の後によみがえる』と言っていたのを思い出しました。

Mat 27:64 ですから、三日目まで墓の番をするように命じてください。そうでないと、弟子たちが来て、彼を盗み出して、『死人の中からよみがえった』と民衆に言うかもしれません。そうすると、この惑わしのほうが、前の場合より、もっとひどいことになります。」

(1) 「あの、人をだます男」

- ①彼らは、イエスという名を口にしない。
- ②辱めを受けた人物の名を排除するのは、ユダヤ人の伝統である。
 - ・「その名とその記憶が消し去られるように」

(2) 『自分は三日の後によみがえる』と言っていたのを思い出しました」

- ①彼らはイエスを信じなかったが、イエスのことばは覚えていた。
- ②彼らは、イエスを悪霊つきと断罪していた。
- ③彼らは、イエスを「人をだます男」と呼んでいる。

(3) もちろん彼らは、イエスが復活することを信じたわけではない。

- ①彼らは、弟子たちが死体を盗み出して、復活をでっちあげてことを恐れた。
- ②もしそうなれば、それは生前にイエスが行った惑わしよりもひどいものになる。

(4) イエスの弟子たちも、イエスが復活することを信じていなかった。

Ⅲ. ピラト

1. 65 - 66 節

Mat 27:65 ピラトは「番兵を出してやるから、行ってできるだけ番をさせるがよい」と彼らに言った。

Mat 27:66 そこで、彼らは行って、石に封印をし、番兵が墓の番をした。

(1) ピラトは許可を出した。

- ①兵士の派遣に同意した。

(2) 兵士たちは、墓石に封印をした。

- ①この墓は、石灰石の岩盤に掘られた横穴式の墓である。
- ②入り口は、円形の石版でふさがれた。
- ③家族が中に入る時には、この墓石をころがして入り口を開ける。
- ④たすき掛けにロープをかけて、恐らく5ヶ所に封印をしたのであろう。
 - ・粘土やロウを使用する。
 - ・ローマの印が押された。

- ⑤この封印を破ると、破った人も、兵士も死刑になる。
 - ⑥ローマ兵にとっては、封印を守る仕事は命がけのものとなった。
- (3) ここには、大いなる皮肉がある。
- ①イエスの敵は、これ以上事態が悪化しないように画策した。
 - ②しかし、彼らがしたことは、結果的にイエスの復活を証言する証拠となった。
 - ③ローマの権力が、封印した墓が開き、空になったことを証言したのである。
 - ・夜、弟子たちがやって来て死体を盗んでという主張を信じる人などいない。

IV. 女たち

1. 1節

Mat 28:1 さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方、マグダラのマリヤと、ほかのマリヤが墓を見に来た。

(1) マコ 16:1

Mar 16:1 さて、安息日が終わったので、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメとは、イエスに油を塗りに行こうと思い、香料を買った。

- ①マグダラのマリア
- ②ヤコブの母マリア (クロパの妻マリア)
- ③サロメ (イエスの母マリアの姉妹)

- (2) 安息日が終わったということは、土曜日の日没になったということ。
- ①店が開くのは、土曜日の日没後である (ユダヤ的時間では、週の初めの日)。
 - ②女たちは、店に行って香料を買った。
 - ③大急ぎで行われた埋葬を完成させるためであろう。

(3) これで、復活の出来事の舞台が整った。

結論:

1. 三日目の復活

(1) マタ 16:21

Mat 16:21 その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。

(2) マタ 26 : 61

Mat 26:61 言った。「この人は、『わたしは神の神殿をこわして、それを三日のうちに建て直せる』と言いました。」

(3) マタイ 12 : 39~40

Mat 12:39 すると、彼らに答えて言われた、「邪悪で不義な時代は、しるしを求める。しかし、預言者ヨナのしるしのほかには、なんのしるしも与えられないであろう。

Mat 12:40 すなわち、ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、地の中にいるであろう。

(4) 以上の表現は、すべて同じ意味である。

①ユダヤ的時間では、少しでもその日にかかっていたら、それは1日である。

②イエスは金曜日の午後3時に死に、日曜日(土曜日の夕刻以降)に復活した。

2. 復活の神学的意義

(1) イエスに関して

①ロマ 1 : 4

Rom 1:4 聖なる霊によれば、死人からの復活により、御力をもって神の御子と定められた。これがわたしたちの主イエス・キリストである。

*イエスは神の御子であることが証明された。

②1 コリ 15 : 20~23

1Co 15:20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。

1Co 15:21 というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活もひとりの人を通して来たからです。

1Co 15:22 すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。

1Co 15:23 しかし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属している者です。

*これまでも蘇生した人たちはいた。

*しかし、栄光の体に復活したのはキリストが最初である。

*キリストの復活は初穂であり、それに続く復活がある。

③ピリ 2 : 6~9

Php 2:6 キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、

Php 2:7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、

Php 2:8 自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。

Php 2:9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。

*父なる神は、キリストが律法の要求をすべて満たしたことを宣言された。

(2) 信者に関して

①ロマ4:24~25

Rom 4:24 また私たちのためです。すなわち、私たちの主イエスを死者の中からよみがえらせた方を信じる私たちも、その信仰を義とみなされるのです。

Rom 4:25 主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。

*復活は、信者は義とされていることを保証する。

②エペ1:17~21

Eph 1:17 どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。

Eph 1:18 また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、

Eph 1:19 また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。

Eph 1:20 神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右の座に着かせて、

Eph 1:21 すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれました。

*復活は、信者に働く神の全能の力を保証する。

③エペ1:22~23

Eph 1:22 また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。

Eph 1:23 教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

*復活は、キリストが教会のかしらであることを保証する。

*この真理は、信徒にとっても指導者にとっても、チャレンジである。

「復活(1)」

マタ 28:2~4、ルカ 24:1~8、ヨハ 20:2~10

1. はじめに

(1) 文脈の確認

①福音の三要素が展開されて行く。

*キリストの死

*埋葬

*復活

(2) ユダヤ的時間の確認

①金曜の午後3時、イエスは息を引き取った。

②金曜の日没前に、イエスは埋葬された。

③土曜日(安息日)に、墓に封印がされた。

④そして、日曜日(夜明け前)に、女たちが行動を開始する。

(3) 復活の記録は、細部を見ると矛盾しているかのように思える。

①しかし、これこそ福音記者たちが事実を記録している証拠である。

②調和をもって説明する方法が必ずある。

(4) A. T. ロバートソンの調和表

§ 170 地震によって開いた墓

マタ 28:2~4

§ 171 天使の語りかけを受ける女たち

マコ 16:2~8、ルカ 24:1~8、ヨハ 20:1

§ 172 使徒たちに報告する女たち

ルカ 24:9~12、ヨハ 20:2~10

2. アウトライン

(1) 開いた墓

(2) 天使の語りかけ

(3) 使徒たちへの報告

3. 結論：復活信仰の型

(1) ペテロの信仰

(2) ヨハネの信仰

(3) トマスの信仰

メシア復活の経緯を確認してみよう。

I. 開いた墓 (マタ 28 : 2~4)

1. 2~3 節

Mat 28:2 すると、大きな地震が起こった。それは、主の使いが天から降りて来て、石をわきへころがして、その上にすわったからである。

Mat 28:3 その顔は、いなずまのように輝き、その衣は雪のように白かった。

(1) 「すると」

- ①時間は、日曜日の明け方頃である。
- ②女たちが墓に着く少し前に、この出来事が起こった。
- ③この情報は、マタイだけが記録しているものである。

(2) 「大きな地震が起こった」

- ①イエスの死の瞬間に地震が起こった。
- ②イエスの復活の瞬間にも地震が起こった。
- ③この地震は、天使が天から降りて来て、石をころがしたことと関係している。

(3) 天使の姿

- ①顔はいなずまのように輝いていた。
- ②その衣は雪のように白かった。
- ③天使は、ローマの権威(封印)も祭司長たちの企ても粉碎した。

2. 4 節

Mat 28:4 番兵たちは、御使いを見て恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになった。

(1) 番兵たちは、天使を見て震え上がった。

- ①死人のようになったとは、動けなくなったということ。
- ②彼らは、女たちが来る前に逃げ去った。

II. 天使の語りかけ (ルカ 24 : 1~8)

1. 1~2 節

Luk 24:1 週の初めの日の明け方早く、女たちは、準備しておいた香料を持って墓に着いた。

Luk 24:2 見ると、石が墓からわきへころがしてあった。

(1) 2つの婦人のグループが墓に来たようである。

①ヨハ20:1によれば、マグダラのマリアが先にひとりで墓に来ている。

Joh 20:1 さて、週の初めの日に、マグダラのマリヤは、朝早くまだ暗いうちに墓に来た。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。

②彼女は墓が空になっているのを見た。

③彼女は、イエスの体が盗まれたと思い込んで、行動を開始する。

④墓の中を確かめることをしなかったし、天使を見ることもなかった。

⑤すぐにペテロとヨハネに報告に行った。

(2) 第2の婦人のグループが墓に着いた。

①香料を持って来た。

②「墓の入口からあの石をころがしてくれる人が、だれかいるでしょうか」と心配していた(マコ16:3)

③着いてみると、墓石がころがしてあるのを見た。

2. 3~4節

Luk 24:3 入って見ると、主イエスのからだはなかった。

Luk 24:4 そのため女たちが途方にくれていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着たふたりの人が、女たちの近くに来了。

(1) 彼女たちは墓の中に入った。

①そこにはイエスのからだはなかった。

②彼女たちは途方にくれた(戸惑った)。

(2) 天使が現れた。

①ふたりの「男」(青年)である。

②まばゆいばかりの衣を着ていた。

③マコ16:5では、天使は「ひとり」となっている。

④これは矛盾ではない。ふたりの天使が現れたが、主にひとりが話したのである。

3. 5~7節

Luk 24:5 恐ろしくなって、地面に顔を伏せていると、その人たちはこう言った。「あなたがたは、なぜ生きている方を死人の中で捜すのですか。」

Luk 24:6 ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出さない。

Luk 24:7 人の子は必ず罪人らの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえらな

ければならない、と言われたでしょう。」

- (1) 彼女たちは、地面に顔を伏せた。
 - ①天使を見て恐れを覚えるのは、ユダヤ人として自然の感情である。

- (2) 天使が語りかけた。
 - ①「なぜ生きている方を死人の中で探すのか」
 - ②イエスは復活された。
 - ③ガリラヤにいた時に、イエスは預言しておられた。
 - ④「人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている」(新共同訳)

- (3) マコ 16 : 7

Mar 16:7 ですから行って、お弟子たちとペテロに、『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおりに、そこでお会いできます』とそう言いなさい。」

- ①「前に言われたとおりに」とは、マタ 26 : 32 のことである。

「しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先に、ガリラヤへ行きま
す」
- ②弟子たちは、エルサレムにとどまるのではなく、ガリラヤに行きべきであった。
- ③弟子たちは、ガリラヤに行けという命令を2度目に受けたことになる。

4. 8 節

Luk 24:8 女たちはイエスのみことばを思い出した。

- (1) 女たちは、イエスが語った復活の預言をついに思い出した。
 - ①彼女たちも、使徒たちと同じように復活の預言を忘れていた。

- (2) マコ 16 : 8 によれば、彼女たちは使徒たちに報告した。
 - ①次に見るように、ペテロとヨハネはいなかった。
 - ②使徒たち以外には、誰にも言わなかった。

Ⅲ. 使徒たちへの報告(ヨハ 20 : 2~10)

1. 2 節

Joh 20:2 それで、走って、シモン・ペテロと、イエスが愛された、もうひとりの弟子とのところに来て、言った。「だれかが墓から主を取って行きました。主をどこに置いたのか、私たちにわかりません。」

- (1) マグダラのマリアは、イエスのからだ盗まれたという前提で行動している。
- ①ペテロとヨハネに報告した。
 - ②誰かが墓から死体を取って行った。
 - ③別のグループの女たちは、自分たちが見聞きしたことを使徒たちに報告した。
 - ④使徒たちは信じなかった。
 - ⑤墓に走ったのは、マグダラのマリアの話聞いたペテロとヨハネだけだった。

2. 3~5節

Joh 20:3 そこでペテロともうひとりの弟子は外に出て来て、墓のほうへ行った。

Joh 20:4 ふたりはいっしょに走ったが、もうひとりの弟子がペテロよりも速かったので、先に墓に着いた。

Joh 20:5 そして、からだをかがめてのぞき込み、亜麻布が置いてあるのを見たが、中に入らなかった。

- (1) ヨハネの方が、足が速かった。
- ①年齢差か。
 - ②伝承では、ヨハネが使徒たちの中で最も若かった。
- (2) ヨハネは先に墓に着いたが、のぞき込んだだけで、中には入らなかった。
- ①亜麻布が置いてあるのを見た。
 - ②マグダラのマリアは誤解したと思ったであろう。
 - ③中に入らなかったのは、儀式的汚れを恐れてのことであろう。

3. 6~8節

Joh 20:6 シモン・ペテロも彼に続いて来て、墓に入り、亜麻布が置いてあって、

Joh 20:7 イエスの頭に巻かれていた布切れは、亜麻布といっしょにはなく、離れた所に巻かれたままになっているのを見た。

Joh 20:8 そのとき、先に墓に着いたもうひとりの弟子も入って来た。そして、見て、信じた。

- (1) ペテロは到着すると、中に入って様子確かめた。
- ①亜麻布は、イエスの死体をくるんだ状態のままで残されていた。
*頭に巻かれていた布切れは、離れた所に巻かれたままになっていた。
 - ②つまり、イエスの体は亜麻布を通過してなくなっていた。
 - ③これは、復活の体が地上の体とは異なることを示している。
 - ④ラザロの場合は、亜麻布を解く必要があった。
 - ⑤ペテロは、なぜ亜麻布がその状態で残されているのか戸惑ったことであろう。

(2) ヨハネはペテロに続いて墓に入った。

- ①ヨハネも同じものを見たが、その意味を理解した。
- ②彼は、イエスが復活したことを信じた。
- ③墓が開いたのは、弟子たちが中に入って確かめるためであった。

4. 9~10節

Joh 20:9 彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかったのである。

Joh 20:10 それで、弟子たちはまた自分のところに帰って行った。

(1) これは、ヨハネの感想である。

- ①使徒たちは、イエスが何度も教えてくださったことを、この時までまだ理解していなかった。
- ②最初に理解したのは、ヨハネである。

(2) 墓に居続ける必要はないと判断し、彼らは町のどこかに戻って行った。

- ①他の使徒たちに伝えるために。

結論：復活信仰の型

1. ペテロの信仰

(1) ヨハ 20 : 7

Joh 20:7 イエスの頭に巻かれていた布切れは、亜麻布といっしょにはなく、離れた所に巻かれたままになっているのを見た。

- ①「見た」はギリシア語で「セオウレオウ」(英語の theater の語源)である。
- ②これは、視覚的認識である。

(2) ルカ 24 : 12

Luk 24:12 しかしペテロは、立ち上がると走って墓へ行き、かがんでのぞき込んだところ、亜麻布だけがあつた。それで、この出来事に驚いて家に帰った。

- ①ペテロは、不思議に思っただけである。
- (3) 彼は、復活のイエスに出会って信じた。

2. ヨハネの信仰

(1) ヨハ 20 : 8

Joh 20:8 そのとき、先に墓に着いたもうひとりの弟子も入って来た。そして、見て、信じた。

- ①「見た」はギリシア語で「エイドス」である。

②これは、深い意味を見たということである。

③ペテロの場合は「sight」でありヨハネの場合は「insight」である。

(2) ヨハネは、亜麻布を見ただけで信じた。

3. トマスの信仰

(1) ヨハ 20 : 29

Joh 20:29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

①トマスは、使徒たちの証言だけで信じる人の型である。

②しかし彼は、最終的には復活のイエスを見て信じた。

(2) 神は私たちに、トマスの失敗から教訓を学ぶことを期待しておられる。

①弟子たちの証言は、生々しい目撃者の証言である。

②その証言を受け入れる以外に、復活を信じる方法はない。

③復活が事実なら、私たちの人生は根本的に変わる。

④「sight」ではなく、「insight」が与えられるように祈ろう。

「復活(2)」

ヨハ20:11~18、マタ28:9~10

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①日曜日(夜明け前)に、女たちが行動を開始する。
- ②墓が空になっていたことを発見する。
- ③マグダラのマリアは、ペテロとヨハネにそれを伝える。
- ④墓に来たペテロは当惑し、ヨハネは信じた。

(2) 復活の記録は、細部を見ると矛盾しているかのように思える。

- ①しかし、これこそ福音記者たちが事実を記録している証拠である。
- ②調和をもって説明する方法が必ずある。

(3) 聖書は、復活のイエスの出現を10回記録している。

- ①復活の当日(日曜日)に5回
- ②それ以降の40日間に5回
- ③今回は、1回目と2回目の現れを試みる。

(4) A. T. ロバートソンの調和表

§173 1回目の現れ: マグダラのマリア

マコ16:9~11、ヨハ20:11~18

§174 2回目の現れ: 女たち

マタ28:9~10

2. アウトライン

- (1) 1回目の現れ
- (2) 2回目の現れ

3. 結論:

- (1) なぜマグダラのマリアが最初の目撃者になったのか。
- (2) なぜマグダラのマリアはイエスに触れることを許されなかったのか。

1回目と2回目の現れから復活の意味を確認してみよう。

I. 1回目の現れ(ヨハ20:11~18)

1. 11~12節

Joh 20:11 しかし、マリヤは外で墓のところにたたずんで泣いていた。そして、泣きながら、からだをかがめて墓の中をのぞき込んだ。

Joh 20:12 すると、ふたりの御使いが、イエスのからだが置かれていた場所に、ひとりはお頭のところに、ひとりはお足のところに、白い衣をまとってすわっているのが見えた。

(1) ペテロとヨハネが去っても、マグダラのマリアは墓に残った。

- ①愛する人を失くした喪失感がある。
- ②彼女にとっては、これは「通夜」(寝ずの番)である。

(2) 彼女は、墓の中をのぞき込んだ。

- ①そこにふたりの天使が、白い衣をまとって座っていた。
- ②ペテロとヨハネは、天使を見ていなかった。
- ③天使が現れる時は、通常、男性の姿を取る。

*例外的には、イザヤが見たセラフィムの幻がある(イザ6:1~13)。

- ④彼女には、超自然的なことが起こっているという認識がない。

2. 13~14節

Joh 20:13 彼らは彼女に言った。「なぜ泣いているのですか。」彼女は言った。「だれかが私の主を取って行きました。どこに置いたのか、私にはわからないのです。」

Joh 20:14 彼女はこう言ってから、うしろを振り向いた。すると、イエスが立っておられるのを見た。しかし、彼女にはイエスであることがわからなかった。

(1) 天使と対話しながら、それに気づいていない。

- ①「なぜ泣いているのですか」
- ②「だれかが私の主を取って行きました。どこに置いたのか、私にはわからないのです」
- ③彼女は依然として、イエスの体が盗まれたという前提で話している。

(2) 彼女はうしろを振り向いた。

- ①背後に人の気配を感じたのであろう。
- ②背後にイエスが立っているのを見た。
- ③しかし、それがイエスであることが分からなかった。
- ④このパターン(イエスだと認識できない)は、それ以降も続く。
- ⑤すぐに前を向いたのであろう。

3. 15節

Joh 20:15 イエスは彼女に言われた。「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」彼女は、それを園の管理人だと思って言った。「あなたが、あの方を運んだのであれば、どこに置いたのか教えてください。そうすれば私が引き取ります。」

(1) イエスの質問

- ① 「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか」

(2) マリアの回答

- ① 彼女は、その人を園の管理人(園丁、庭師)だと勘違いした。
② 「あなたが、あの方を運んだのであれば、どこに置いたのか教えてください。そうすれば私が引き取ります」
③ なぜイエスだと認識できなかったのか。
* 涙で目が曇っていた。
* イエスの姿があまりにも変化していた。
* 神が一時的に霊的盲目状態を作り出された。
* 喪失感が深く、正常な判断ができなかった。

4. 16~17節

Joh 20:16 イエスは彼女に言われた。「マリヤ。」彼女は振り向いて、ヘブル語で、「ラボニ(すなわち、先生)」とイエスに言った。

Joh 20:17 イエスは彼女に言われた。「わたしにすがりついてはいけません。わたしはまだ父のもとに上っていないからです。わたしの兄弟たちのところに行って、彼らに『わたしは、わたしの父またあなたがたの父、わたしの神またあなたがたの神のもとに上る』と告げなさい。」

(1) イエスであるとの認識が生まれた。

- ① 旧約聖書で最大の「認識事件」は、「私はヨセフです」である(創 45:1~3)。
② 歴史上最大の「認識事件」は、ここである。
③ そのきっかけは、「マリヤ」という呼びかけである。
④ 善き羊飼いは、羊の名を呼び、羊はそれについて行く(ヨハ 10:3、4)。
⑤ 終末時代に、ユダヤ人たちはイエスがメシアであることを認識する。

(2) 彼女は振り向いた。

- ① ヘブル語で、「ラボニ」と言った。先生、あるいは、私の先生。

(3) イエスは、マリアがイエスに触れることを許さなかった。

- ① 「わたしはまだ父のもとに上っていないからです」がその理由であった。

(4) マリアへの命令

①「わたしの兄弟たちのところに行って」

*ヨハ15:15

Joh 15:15 わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。

*ここでは、「兄弟たち」となっている。

*イエスを信じる者たちは、神を天の父とする家族である。

*ロマ8:29

Rom 8:29 なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです。

②「わたしは、わたしの父またあなたがたの父、わたしの神またあなたがたの神のもとに上る」

*イエスは神の家族の中の長子である。

*しかし、イエスと神の関係は、私たちと神の関係とは違う。

*イエスの場合は、「わたしの父」である。

*私たちの場合は、「私たちの父」である。

(5) マリアには、新しい使命が与えられた。復活の証人としての使命である。

①天使たちを見た。

②復活のイエスを見た。

③最初の目撃者となった。

④よき知らせを伝える者となった。

5. 18節

Joh 20:18 マグダラのマリヤは、行って、「私は主にお目にかかりました」と言い、また、主が彼女にこれらのことを話されたと弟子たちに告げた。

(1) マグダラのマリヤは、弟子たちによき知らせを伝えた。

①彼女は、「使徒たちへの使徒」となったのである。

(2) しかし、弟子たちは、彼女の証言を信じなかった(他の婦人たちの証言も)。

①ルカ24:11

Luk 24:11 ところが使徒たちにはこの話はたわごとと思われたので、彼らは女たちを信用しなかった。

②エマオ途上の弟子たちは、イエスからお叱りを受けた。

II. 2回目の現れ(マタ28:9~10)

1. 9節

Mat 28:9 **すると、イエスが彼女たちに出会って、「おはよう」と言われた。彼女たちは近寄って御足を抱いてイエスを拝んだ。**

(1) 同じ日(日曜日)、少し時間が経過してからイエスが婦人たちに現れた。

① 2度目の現れも、婦人たちに対してであった。

(2) 彼女たちは、いろいろと思いを巡らせていたであろう。

① 天使に会ったこと

② 墓が空になっていたこと

(3) イエスが彼女たちに出会って、あいさつのことばをかけた。

① 「おはよう」(新改訳)(新共同訳)

② 「平安あれ」(口語訳)

③ 「安かれ」(文語訳)

④ ギリシア語は「カイロウ」という動詞の命令形。

* 「喜べ」というニュアンスが込められたあいさつの言葉

(4) 彼女たちはイエスの御足を抱いて、イエスを拝した。

① マグダラのマリアの時とは違っている。

② 時間の経過があったが、その間に何か起こったのであろう。

2. 10節

Mat 28:10 **すると、イエスは言われた。「恐れてはいけません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えるのです。」**

(1) イエスは彼女たちを派遣した。

① 「ガリラヤに行くように言いなさい」

② イエスがそう命じるのはこれで3回目である。

* 過越の食事の席でイエスが命じた(マタ26:32)。

* 墓で天使たちが命じた(マタ28:7)。

結論:

1. **なぜマグダラのマリアが最初の目撃者になったのか。**

(1) マリアはイエスを心から慕っていたから。

①ルカ8:1

Luk 8:1 その後、イエスは、神の国を説き、その福音を宣べ伝えながら、町や村を次から次に旅をしておられた。十二弟子もお供をした。

Luk 8:2 また、悪霊や病気を直していただいた女たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの女と呼ばれるマリヤ、

Luk 8:3 自分の財産をもって彼らに仕えているヘロデの執事クーザの妻ヨハンナ、スザンナ、そのほか大ぜいの女たちもいっしょであった。

②ヨハ19:25

Joh 19:25 兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。

③ヨハ20:1

Joh 20:1 さて、週の初めの日に、マグダラのマリヤは、朝早くまだ暗いうちに墓に来た。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。

④多く赦された者は、多く愛す。

⑤イエスは、彼女の献身的な愛に応答されたのであろう。

(2) 復活が歴史的出来事であることを証言するため。

①ユダヤの法廷では、婦人の証言は無効とされた。

②弟子たちが信じなかったのも、そこに一因がある。

③もし弟子たちが復活を捏造したとするなら、女たちを最初の発見者にはしない。

④マリアが天使やイエスを認識できなかったことは、事実の「におい」がする。

2. なぜマグダラのマリアはイエスに触れることを許されなかったのか。

(1) 最初の解釈の可能性

①ハプトマイ(すがりつく)

②フェロウ(手を伸ばす)

(2) 第2の解釈の可能性

①ヨハ20:17

Joh 20:17 イエスは彼女に言われた。「わたしにすがりついてはいけません。わたしはまだ父のもとに上っていないからです。わたしの兄弟たちのところに行って、彼らに『わたしは、わたしの父またあなたがたの父、わたしの神またあなたがたの神のもとに上る』と告げなさい。」

②へブ9:23

Heb 9:23 ですから、天にあるものにかたどったものは、これらのものによってきよめられる

必要がありました。しかし天にあるもの自体は、これよりもさらにすぐれたいけにえで、きよめられなければなりません。

③ヘブ 10:12~13

Heb 10:12 しかし、キリストは、罪のために一つの永遠のいけにえをささげて後、神の右の座に着き、

Heb 10:13 それからは、その敵がご自分の足台となるのを待っておられるのです。

④イエスは、大祭司として天の幕屋を清める役割を担っていたが、まだそれを実行していなかった。

⑤どうして天の幕屋を清める必要があったのか。

⑥エゼ 28:18

Eze 28:18 あなたは不正な商いで不義を重ね、／あなたの聖所を汚した。／わたしはあなたのうちから火を出し、／あなたを焼き尽くした。／こうして、すべての者が見ている前で、／わたしはあなたを地上の灰とした。

⑥大祭司が贖罪の日に行うこと

*大祭司の衣装を脱ぐ(色彩豊かな衣装)。

*儀式的清めを行う。

*贖罪の日の衣装を身に付ける(亜麻布の装束)。

*種々の儀式を行う(贖いの蓋の前にやぎの血を振りかける)。

*再度、儀式的清めを行う。

*大祭司の衣装を着る。

⑦この過程で、大祭司は誰にも触られてはならない。汚れを受けることになる。

⑧イエスは、ご自身の血をもって天の幕屋を清めようとしていた。

⑨これは仮説であるが、種々の聖句と調和する仮説である。

(3) イエスとの新しい出会い

①ひとつのいけにえによって、私たちが聖なる者としてくださった。

②父なる神の右の座に着き、私たちのために執りなしをしていくくださる。

③やがて、すべての敵が減ぼされ、すべての舌がイエスは主なりと告白するようになる。

「復活(3)」

マタ 28 : 11~15

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ① 週の初めの日(日曜日)に、イエスは復活された。
- ② 1回目の現れ: マグダラのマリアに対して
- ③ 2回目の現れ: 女たちに対して
- ④ 聖書は、復活のイエスの出現を10回記録している。
 - * 復活の当日(日曜日)に5回
 - * それ以降の40日間に5回

(2) 復活のイエスの顕現

- ① マグダラのマリアに (マコ 16 : 9~11)
- ② 女たちに (マタ 28 : 8~10)
- ③ エマオ途上の2人の弟子たちに (ルカ 24 : 13~32)
- ④ ペテロに (ルカ 24 : 34)
- ⑤ トマスを除いた使徒たちに (ヨハ 20 : 19~25)
- ⑥ トマスを含めた使徒たちに (ヨハ 20 : 26~31)
- ⑦ ガリラヤ湖畔で7人の弟子たちに (ヨハ 21 章)
- ⑧ 500人以上の信者たちに (1コリ 15 : 7)
- ⑨ ヤコブに (1コリ 15 : 7)
- ⑩ オリーブ山で使徒たちに (使 1 : 3~12)

(3) 今回は、2回目と3回目の現れの間起きた出来事を見てみる。

(4) A. T. ロバートソンの調和表

§ 175 番兵たちの報告

マタ 28 : 11~15

2. アウトライン

- (1) 番兵たちの報告 (11 節)
- (2) 祭司長たちの陰謀 (12~14 節)
- (3) 陰謀の結果 (15 節)

3. 結論：イエスの復活を否定する種々の説

- (1) 女たちは墓を間違えた。
- (2) イエスは仮死状態から目覚めた。
- (3) 弟子たちが死体を盗んだ。
- (4) 弟子たちは幻を見た。

番兵たちの報告から、イエスの復活の真実性を確認してみる。

I. 番兵たちの報告 (11 節)

Mat 28:11 女たちが行き着かないうちに、もう、数人の番兵が都に来て、起こった事を全部、祭司長たちに報告した。

1. 女たちはイエスに出会った。
 - (1) これが2回目の現れであった。
 - ①彼女たちは、使徒たちに報告するために走った。
 - ②彼女たちが町に入る前に、番兵たちの方が先に町に着いた。
2. 番兵たちはすぐに行動を起こした。
 - (1) 番兵たちは、天使を見て恐ろしさの余り、死人のようになった(マタ 28:4)。
 - ①しばらくして、彼らは正常な状態に戻った。
 - ②彼らはすぐに行動を起こした。
 - (2) 彼らには、起こったことを報告する義務があった。
 - ①もし総督ピラトに正直に報告したら、死刑になることが分かっている。
 - ②墓の見張りは、命がけの任務であった。
 - ③その実例が、使 12:18~19にある。

Act 12:18 さて、朝になると、ペテロはどうなったのかと、兵士たちの間に大騒ぎが起こった。

Act 12:19 ヘロデは彼を捜したが見つけることができないので、番兵たちを取り調べ、彼らを処刑するように命じ、そして、ユダヤからカイザリヤに下って行って、そこに滞在した。

- (2) 彼らが向かった先は、総督ピラトではなく、祭司長たちであった。
 - ①彼らは、祭司長たちの要請で墓に封印をしたことを知っていた。
 - ②祭司長たちなら、何とかしてくれるのではないかという期待があった。
- (3) 彼らは、起こったことを全部報告した。
 - ①大地震が起こった。

- ② 光り輝く天使が墓石を動かし、その上に座った。
- ③ 墓は空になり、亜麻布と頭に巻く布だけが残された。
- ④ 自分たちの意識は正常で、一連の出来事をすべて目撃した。
- ⑤ これをどう説明していいかわからない。
- ⑥ 自分たちには責任はない。
- ⑦ ひとつ言えるのは、イエスの死体が消えたということである。

II. 祭司長たちの陰謀 (12~14 節)

1. 協議 (12 節 a)

Mat 28:12a **そこで、祭司長たちは民の長老たちとともに集まって協議し、**

- ① サンヘドリンが、緊急に非公式の会議を開いたということである。
- ② 死体が消えたという知らせは、困った結果をもたらすであろう。
- ③ ローマ兵という第3者からの報告なので、より一層説得力がある。

2. 買収 (12b~13 節)

Mat 28:12b **兵士たちに多額の金を与えて、**

Mat 28:13 **こう言った。『夜、私たちが眠っている間に、弟子たちがやって来て、イエスを盗んで行った』と言うのだ。**

- (1) かつて、偽りの証言を得るためにイスカリオテのユダを買収したことがある。
 - ① 今回は、偽りの証言を得るために番兵たちを買収した。
- (2) 番兵たちは、上司に偽りの報告をするように助言された。
「夜、私たちが眠っている間に、弟子たちがやって来て、イエスを盗んで行った」

3. 責任保証 (14 節)

Mat 28:14 **もし、このことが総督の耳に入っても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。」**

- (1) 祭司長たちは、この報告がピラトの耳に入ったら大事件になることを知っていた。
 - ① そこで、自分たちが介入するからと約束し、番兵たちを安心させた。
- (2) うまく説得するとは、賄賂を贈って見逃してもらおうようにするということである。
 - ① ピラトが賄賂に弱い人物であることは、よく知られていた。

III. 陰謀の結果(15節)

Mat 28:15 **そこで、彼らは金をもらって、指図されたとおりにした。それで、この話が広くユダヤ人の間に広まって今日に及んでいる。**

1. 番兵たちは同意して、指図されたとおりにした。
 - ①多額の金が手に入る。
 - ②安全も保障されている。
 - ③上官に真実を報告するよりも、はるかに得策である。

2. 「この話が広くユダヤ人の間に広まって今日に及んでいる」
 - ①マタイがこの福音書を執筆した時点で、この話がユダヤ人の間に広まっていた。
 - ②今日でも、ユダヤ人の多くがこの話を信じている。

3. ユダヤ人の指導者たちが復活の事実を拒否したことの意味
 - ①彼らは、番兵たちの証言内容を否定しなかった。
 - ②しかし、超自然的な要素をすべて無視し、事実を曲げることによって空の墓を合理的に説明しようとした。
 - ③これは、「ヨナのしるし」の拒否である。
 - ④第1の「ヨナのしるし」は、ラザロの復活であった。
 - ⑤第2の「ヨナのしるし」は、イエスの復活である。
 - ⑥第3の「ヨナのしるし」は、大患難時代のふたりの証人の復活である(黙11章)。

結論：イエスの復活を否定する種々の説

1. 女たちは墓を間違えた。
 - (1) 金曜日の夕方に見た墓を、日曜日の朝に見間違えることはあり得ない。
 - (2) アリマタヤのヨセフの墓は、個人所有の園の中にある唯一の墓であった。
 - (3) ペテロやヨハネまで間違ったというのか。
 - (4) 天使まで間違った墓の上に降りたというのか。

2. イエスは仮死状態から目覚めた。
 - (1) 墓の中で目を覚ました人が、内側から墓石を取り除けることは不可能である。
 - (2) 目を覚ましたとして、亜麻布をどのようにしてほどくのか。
 - (3) ヨハネは、イエスは確実に死んだと記録している(水と血が流れ出た)。

3. 弟子たちが死体を盗んだ。

(1) ユダヤ人たちは、四方に使者を派遣して、偽りの知らせをばらまいた。

①殉教者ユスティノスの報告

(2) ではなぜ弟子たちは、嘘のために殉教の死を選んだのか。

①人は、嘘のために死ぬことはできない。

4. 弟子たちは幻を見た。

(1) 後の時代に、思慮深いユダヤ人たちが考え出した説である。

(2) 悲しみの余り、イエスの幻を見たのであるが、それを本物だと誤解した。

(3) 復活のイエスは、異なった状況の中で、さまざまな人たちに10回も現れた。

「復活(4)」

ルカ 24 : 13~35

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ① 週の初めの日(日曜日)に、イエスは復活された。
- ② 聖書は、復活のイエスの出現を10回記録している。
 - * 復活の当日(日曜日)に5回
 - * それ以降の40日間に5回

(2) 復活のイエスの顕現

- ① マグダラのマリアに(マコ 16 : 9~11)
- ② 女たちに(マタ 28 : 8~10)
- ③ エマオ途上の2人の弟子たちに(ルカ 24 : 13~32)
- ④ ペテロに(ルカ 24 : 34)
- ⑤ トマスを除いた使徒たちに(ヨハ 20 : 19~25)
- ⑥ トマスを含めた使徒たちに(ヨハ 20 : 26~31)
- ⑦ ガリラヤ湖畔で7人の弟子たちに(ヨハ 21 章)
- ⑧ 500人以上の信者たちに(1コリ 15 : 7)
- ⑨ ヤコブに(1コリ 15 : 7)
- ⑩ オリーブ山で使徒たちに(使 1 : 3~12)

(3) 今回は、3回目と4回目の現れを見てみる。

(4) A. T. ロバートソンの調和表

§ 176 エマオ途上のふたりの弟子たちへの現れ

ルカ 24 : 13~32

§ 177 ペテロへの現れ

ルカ 24 : 33~35、1コリ 15 : 5

2. アウトライン

- (1) 起(エマオへの道中)
- (2) 承(見知らぬ人との会話)
- (3) 転(聖書の解き明かし)
- (4) 結(霊的開眼)

3. 結論:

- (1) ペテロへの現れ
- (2) クレオパへの現れ

イエスの復活が弟子たちに与えた影響について考えてみる。

I. 起 (エマオへの道中)

1. 13～14節

Luk 24:13 ちょうどこの日、ふたりの弟子が、エルサレムから十一キロメートル余り離れたエマオという村に行く途中であった。

Luk 24:14 そして、ふたりでこのいっさいの出来事について話し合っていた。

- (1) 「ちょうどこの日、ふたりの弟子が」
 - ①日曜日の午後である。
 - ②登場人物は、ふたりの弟子である。
 - ③恐らく、70人の弟子たちの中のふたりであろう。
 - ④イエスは彼らを宣教のために派遣した。
 - ⑤ひとりにはクレオパで、もうひとりは無名の弟子であった。

- (2) 「エマオという村に行く途中であった」
 - ①エマオは、エルサレムの北西60スタディオン(11キロメートル)にある村。
 - ②なぜエルサレムを去るのか理由は書かれていないが、想像はできる。
 - *悲しみ、驚き、失望
 - *自分を取り戻すために生活の場に戻る必要があったのであろう。

- (3) 「ふたりでこのいっさいの出来事について話し合っていた」
 - ①イエスの死、埋葬、そして復活したという知らせがその内容である。
 - ②動詞は、未完了形である。継続した動作。

2. 15～16節

Luk 24:15 話し合ったり、論じ合ったりしているうちに、イエスご自身が近づいて、彼らとともに道を歩いておられた。

Luk 24:16 しかしふたりの目はさえぎられていて、イエスだとはわからなかった。

- (1) 「イエスご自身が近づいて、彼らとともに道を歩いておられた」
 - ①イエスが彼らとともに道を歩かれた。動詞は、未完了形である。
 - ②旅の途中で知らない人が会話に加わることは、ユダヤ人には普通のこと。

- ③過越の祭りを祝った巡礼者が帰路につく場合は、特にそう言える。

- (2)「ふたりの目はさえぎられていて、イエスだとはわからなかった」
 - ①なぜイエスだとわからなかったのか。
 - ②思い込みが激しかった、悲しみに沈んでいた、復活の体を認識できなかった。
 - ③神が霊的目を閉ざしておられた。

II. 承(見知らぬ人との会話)

1. 17～18節

Luk 24:17 イエスは彼らに言われた。「歩きながらふたりで話し合っているその話は、何のことですか。」すると、ふたりは暗い顔つきになって、立ち止まった。

Luk 24:18 クレオパというほうが答えて言った。「エルサレムにいながら、近ごろそこで起こった事を、あなただけが知らなかったのですか。」

- (1)「歩きながらふたりで話し合っているその話は、何のことですか」
 - ①イエスは、知らないから質問しているわけではない。
 - ②彼らの信仰を喚起するための会話を始めているのである。

- (2)「すると、ふたりは暗い顔つきになって、立ち止まった」
 - ①驚きの反応。立ち止まった。
 - ②悲しみの反応。暗い顔つきになった。

- (3) クレオパの言葉
 - ①エルサレムにいたなら、誰でも知っている話を、あなただけが知らないのか。
 - ②イエスの活動と死は、エルサレム中に知れ渡っている。
 - *過越の祭りの最中に十字架刑が執行された。
 - ③ルカは、イエスを拒否したユダヤ人の責任を問うている。

2. 19～21節 a

Luk 24:19 イエスが、「どんな事ですか」と聞かれると、ふたりは答えた。「ナザレ人イエスのことです。この方は、神とすべての民の前で、行いにもことばにも力のある預言者でした。

Luk 24:20 それなのに、私たちの祭司長や指導者たちは、この方を引き渡して、死刑に定め、十字架につけたのです。

Luk 24:21 しかし私たちは、この方こそイスラエルを贖ってくださるはずだ、と望みをかけていました。

- (1) イエスの質問に対して、ふたりの弟子たちが答えた。
- ①自分たちが信じていたことと、実際の出来事が合致しないので、当惑している。
 - ②彼らの言葉は、信者の一般的な思いを代表している。

- (2) 彼らが信じていた4つのこと
- ①イエスは神の預言者であった。
 - ②イエスが預言者であることは、その教えと行いによって証明された。
 - ③イエスは裁判にかけられ、死刑に定められ、十字架につけられた。
 - ④イエスはイスラエルを贖ってくださるはずだ(メシア)と望みをかけていた。

- (3) イエスがメシアであり、神の国をもたらすお方であるという期待が広まっていた。
- ①ルカ2:30(シメオンの言葉)

Luk 2:30 私の目があなたの御救いを見たからです。

- ②ルカ2:38(アンナの言葉)

Luk 2:38 ちょうどこのとき、彼女もそこにおいて、神に感謝をささげ、そして、エルサレムの贖いを待ち望んでいるすべての人々に、この幼子のことを語った。

3. 21b~24節

事実、そればかりでなく、その事があってから三日目になりますが、

Luk 24:22 また仲間の女たちが私たちに驚かせました。その女たちは朝早く墓に行ってみましたが、

Luk 24:23 イエスのからだが見当たらないので、戻って来ました。そして御使いたちの幻を見たが、御使いたちがイエスは生きておられると告げた、と言うのです。

Luk 24:24 それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、はたして女たちの言ったとおりで、イエスさまは見当たらなかった、というのです。」

- (1) 次に彼らは、イエスが復活したという知らせについても話した。
- ①これは、第1の現れと第2の現れのことである。
 - ②彼らは、イエスが復活したということを、まだ信じていない。

- (2) 「三日目になる」

- ①イエスの十字架刑が金曜日に行われたことを証明している。

- (3) イエスは、彼らが心の中にあることをすべて吐き出すまで黙って聞いている。

- ①試練の中にいる人の話を聞く際に、大いに参考になる。

Ⅲ. 転(聖書の解き明かし)

1. 25～27節

Luk 24:25 するとイエスは言われた。「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。

Luk 24:26 キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光に入るはずではなかったのですか。」

Luk 24:27 それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。

(1) イエスは、彼らを優しく戒めた。

①預言者たちは、メシアの受難と復活を預言していた。

(2) 「モーセおよびすべての預言者」

①モーセとは「モーセの五書」のこと。本来は1冊の書である。

②預言者(複数形)とは、預言書のこと。

③これ全体で、旧約聖書を指す。

④旧約聖書はメシアを指し示している。

*申 18 : 15～18

*詩 22 篇

*イザ 9 : 1～21、11 : 1～16、53 : 1～12

⑤これは、イエスによるバイブルスタディである。

⑥それを聞きたいと思うが、私たちには旧新約聖書と聖霊の助けがある。

(3) 旧約聖書の重要性

①初代教会の時代、伝道は旧約聖書を用いて行われた。

②新約教会は、新約聖書が書かれる前に活動を開始していた。

③ユダヤ人伝道は、旧約聖書を用いて行われる。

2. 28～29節

Luk 24:28 彼らは目的の村に近づいたが、イエスはまだ先へ行きそうな様子であった。

Luk 24:29 それで、彼らが、「いっしょにお泊まりください。そろそろ夕刻になりますし、日もおおかた傾きましたから」と言って無理に願ったので、イエスは彼らといっしょに泊まるために中に入られた。

(1) エマオに近づいたが、イエスはまだ先に行きそうな様子であった。

①イエスは、招かれない限り無理に家に入ることはない。

②家を心と置き換えても同じことが言える。

(2) 彼らはイエスを強いて引き止めた(無理に願った)。

①そろそろ夕刻になる。旅は危険である。

②空腹になって来た。

③食事と宿が用意されている。

④イエスは、彼らの招きに応じて家に入った。

IV. 結(霊的開眼)

1. 30~31節

Luk 24:30 彼らとともに食卓に着かれると、イエスはパンを取って祝福し、裂いて彼らに渡された。

Luk 24:31 それで、彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは、彼らには見えなくなった。

(1) イエスは、主人の役割を果たしておられる。

①パンを取って神の御名を祝福した。

②裂いて彼らに渡した。

(2) 彼らの目が開かれて、イエスだとわかった。

①パンを裂くしぐさ

*5000人のパンの奇跡

*最後の晩餐

②イエスの手首に釘の後を見たのであろう。

③その瞬間、イエスは見えなくなった。

④イエスの体が、新しい次元の体であることを示している。

⑤聖餐式の席には、イエスがともにいてくださる。

2. 32節

Luk 24:32 そこでふたりは話し合った。「道々お話しになっている間も、聖書を説明して下さった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。」

(1) 「心はうちに燃えていた」

①教師はイエスご自身であった。

②内容は、聖書のそのものであった。

(2) 私たちの心が燃えるための秘訣がここにある。

①心が燃えるとは、話し手に同意し、感動している状態である。

3. 33～35節

Luk 24:33 **すぐさまふたりは立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、**

Luk 24:34 **「ほんとうに主はよみがえって、シモンにお姿を現された」と言っていた。**

Luk 24:35 **彼らも、道であったいろいろなことや、パンを裂かれたときにイエスだとわかった次第を話した。**

(1) 彼らはすぐにエルサレムに戻った。

①「十一使徒」とは、使徒集団を表す言葉である。トマスはいなかった。

②彼らは、復活のイエスがシモン(ペテロ)に現れたという知らせを聞いた。

③今度は、彼ら自身が、自分たちの体験に基づいてイエスの復活を証言した。

(2) 1コリ 15:5

1Co 15:5 **また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。**

①12弟子の中で最初に復活のイエスを見たのは、ペテロである。

(3) マコ 16:13

Mar 16:13 **そこでこのふたりも、残りの人たちのところへ行ってこれを知らせたが、彼らはふたりの話も信じなかった。**

結論：イエスの憐れみ

1. ペテロへの現れ

(1) 使徒集団で、最初に復活のイエスを見たのはペテロであった。

(2) ペテロは、赦しと励ましを必要としていた。

(3) ペテロが初代教会のリーダーとなることを使徒集団が認識する必要があった。

2. クレオパへの現れ

(1) クレオパの名が上がっているのは、初代教会で有名な指導者となったから。

(2) クレオパは、後にエルサレム教会の指導者となった。

①イエスの弟のヤコブが死んでから。

(3) 紀元66年

①将軍ティトウスは、エルサレムの包囲を解いてローマに帰還し、皇帝となった。

- ②その時、メシアニック・ジューたちはイエスの預言に従ってエルサレムから逃れた。
- ③紀元70年にエルサレムが陥落した時、メシアニック・ジューで死んだ人はひとりも出なかった。
- ④この時、メシアニック・ジューたちを導いたのはクレオパであった。

「復活(5)」

ヨハ20:19~31

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ① 週の初めの日(日曜日)に、イエスは復活された。
- ② 聖書は、復活のイエスの出現を10回記録している。
 - * 復活の当日(日曜日)に5回
 - * それ以降の40日間に5回

(2) 復活のイエスの顕現

- ① マグダラの MARIA に (マコ16:9~11)
- ② 女たちに (マタ28:8~10)
- ③ エマオ途上の2人の弟子たちに (ルカ24:13~32)
- ④ ペテロに (ルカ24:34)
- ⑤ トマスを除いた使徒たちに (ヨハ20:19~25)
- ⑥ トマスを含めた使徒たちに (ヨハ20:26~31)
- ⑦ ガリラヤ湖畔で7人の弟子たちに (ヨハ21章)
- ⑧ 500人以上の信者たちに (1コリ15:7)
- ⑨ ヤコブに (1コリ15:7)
- ⑩ オリーブ山で使徒たちに (使1:3~12)

(3) 今回は、5回目と6回目の現れをしてみる(1週間の間隔があいている)。

(4) A. T. ロバートソンの調和表

- §178 トマスを除いた使徒たちへの現れ
ヨハ20:19~25、ルカ24:36~43
- §179 トマスを含めた使徒たちへの現れ
ヨハ20:26~31

2. アウトライン

- (1) 復活のイエスの現れ
- (2) 弟子たちの信仰
- (3) トマスの信仰
- (4) この書を書いた目的

3. 結論:

- (1) 「見ずに信じる者は幸いです」
- (2) 「平安があなたがたにあるように」

使徒たちの体験について考えてみる。

I. 復活のイエスの現れ

1. 19～20節

Joh 20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方のであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」

Joh 20:20 こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。

(1) 状況説明

- ①日曜日の夕刻(あるいは夜)のことである。
- ②弟子たちは夕食のために集まっていた。恐らく過越の食事をした二階部屋。
- ③彼らは、クレオパともうひとりの弟子の証言を聞いたばかりである。
- ④彼らはまだエルサレムにいる。ガリラヤに向かっていない。
- ⑤ユダヤ人たちに恐れて、部屋に鍵をかけて閉じこもっている。
 - *彼らは、イエスとともに逮捕されそうになった。
 - *彼らは、ユダヤ人の指導者たちを恐れている。
 - *彼らは、死を恐れている。
 - *7週間後のペンテコステの日の彼らの姿とは全く異なる。
- ⑥イエスは、恵みのゆえに彼らの前に現われる。

(2) イエスの現れ

- ①締め切った部屋に入って来られた。
 - *復活の体は異次元の体である。
 - *しかし、十字架上で死ぬ前の体との継続性がある。
- ②彼らの中に立たれた。
- ③「平安があなたがたにあるように」と言われた。
 - *「シャローム・アレヘム」であろう。
 - *ユダヤ人の通常のあいさつであるが、ここではより重い意味を持っている。
- ④その手とわき腹を示された。
- ⑤弟子たちは喜んだ。しかし、最初は恐れた。

II. 弟子たちの信仰

1. ルカ 24 : 37~43

Luk 24:37 彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。

Luk 24:38 すると、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。」

Luk 24:39 わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。わたしは持っています。」

Luk 24:41 それでも、彼らは、うれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか」と言われた。

Luk 24:42 それで、焼いた魚を一切れ差し上げると、

Luk 24:43 イエスは、彼らの前で、それを取って召し上がった。

(1) イエスは弟子たちの不信仰をしかった。

①ガリラヤに行くように3度言われていたが、エルサレムに留まっていた。

②イエスを見たという人たちの証言を信じるができなかった。

*婦人たち

*クレオパともうひとりの弟子

*ペテロ

③実際にイエスを見ても、恐れて、それを霊だと思った。

(2) イエスは、自分の手と足を見せ、霊ではなく肉体を持っていることを示した。

①それでも彼らは、うれしさのあまり信じられず、不思議がっていた。

(3) イエスは、焼いた魚を食べた。

①霊は食べることができない。

②この時点で、弟子たちは大喜びし、イエスの復活を信じた。

2. 21~23 節

Joh 20:21 イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」

Joh 20:22 そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

Joh 20:23 あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。」

(1) イエスは弟子たちに御子の権威を授けた。

①イエスは父の権威を受けて派遣された。

②弟子たちは、イエスの権威を受けて派遣される。

*これが大宣教命令と呼ばれるものである(マタ28:18~20)。

(2)「聖霊を受けなさい」

①イエスは息を吹きかけた。使2章では、聖霊が風のように下った。

②しかし、ここでの聖霊の付与は、使2章の聖霊によるバプテスマとは異なる。

③これは、みことばを理解させる力の付与であろう。

*7週後のペンテコステまでの一時的な賜物と考えるべきである。

④ルカ24:45~47

Luk 24:45 そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、

Luk 24:46 こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、

Luk 24:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。

(3) かつてペテロに与えられた使徒的権威が、全員に与えられた。

①「罪を赦す、罪を残す」とは、救いに関することではない。

②これは、新約時代の信者の行動規範に関することである。

3. 24~25節

Joh 20:24 十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたときに、彼らと一っしょにいなかった。

Joh 20:25 それで、ほかの弟子たちが彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません」と言った。

(1) トマスはその場にいなかった。

①理由は分からない。

②不在が責められるのではなく、不信仰が責められるべきである。

(2) ほかの弟子たちの証言を信じなかった。

①彼は、実証主義者である。

②しかし、これは合理的な態度ではない。

③科学者でも、見えないものや触れないものの存在を信じている。

(3) 弟子たちは、それ以降のガリラヤに向けて旅立たない。

①恐らく、トマスのゆえであろう。

Ⅲ. トマスの信仰

1. 26～27 節

Joh 20:26 八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らと一しょにいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなたがたにあるように」と言われた。

Joh 20:27 それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」

(1) 状況説明

- ①8日後の日曜日である。
- ②弟子たちはまだエルサレムに残っている。
- ③今度は、トマスもともにいた。
- ④イエスは再び、恵みのゆえに彼らに現れた。

(2) トマスへの言葉

- ①トマスの願いに答えた。
- ②愛の溢れることばを語った。

2. 28～29 節

Joh 20:28 トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」

Joh 20:29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

(1) 「私の主。私の神」

- ①ヨハネの福音書のサブテーマの一つが、信仰と不信仰の対比である。
- ②イエスの敵の不信仰は進展し、最後は十字架刑でクライマックスを迎える。
- ③弟子たちの信仰も進展し、最後はトマスの信仰告白でクライマックスを迎える。
- ④重要なのは、イエスがトマスの礼拝を受け入れたことである。

(2) イエスの有名なことば

「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです」

IV. この書を書いた目的

1. 30 節

Joh 20:30 この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行われた。

- (1) ヨハネは、共観福音書に記された奇跡をよく知っていた。
 - ①4つの福音書には、35の異なった奇跡が記されている。
 - ②ヨハネは、7つの奇跡(しるし)を選んで記録した。
- (2) 現代人は、奇跡の記録を無視したり、合理的に説明しようとしたりする。
 - ①イエス時代の人たちには、それは不可能なことであった。
 - ②彼らは、数多くの奇跡を現実に目撃したのである。

2. 31 節

Joh 20:31 しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。

- (1) ヨハネが福音書を書いた目的が記されている。
 - ①イエスが神の子キリストであることを信じるため。
 - ②信じて、イエスの御名によっていのちを得るため。

結論：

1. 「見ずに信じる者は幸いです」

- (1) トマスも含めて、使徒たち全員が見たから信じたのである。
- (2) イエスは、信者の信仰を励ますために、ある体験をさせることがある。
- (3) しかし、体験によって判断するよりも、みことばによって判断するのがよい。
 - ①体験は、みことばに照らして吟味する必要がある。
- (4) イエスは私たちの不完全さをよくご存じである。
 - ①それゆえ、私たちのいるところに降りて来て、語りかけてくださることがある。
 - ②トマスの場合がその好例である。
- (5) 信仰を強める体験は、主から与えられた恵みであって、みことば以上の価値を有するものではない。

2. 「平安があなたがたにあるように」

(1) 通常のあいさつのことばが、深い神学的意味を持つようになった。

①イエスの死の前と後では、「平安」の内容の重みが違う。

(2) ヨハ14:27

Joh 14:27 わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。

(3) ヨハ16:33

Joh 16:33 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

(4) ロマ5:1

Rom 5:1 ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。

(5) ピリ4:7

Php 4:7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

「復活(6)」

ヨハ21:1~25

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①聖書は、復活のイエスの出現を10回記録している。
- ②復活の当日(日曜日)に5回、それ以降の40日間に5回。

(2) 復活のイエスの顕現

- ①マグダラのマリアに(マコ16:9~11)
- ②女たちに(マタ28:8~10)
- ③エマオ途上の2人の弟子たちに(ルカ24:13~32)
- ④ペテロに(ルカ24:34)
- ⑤トマスを除いた使徒たちに(ヨハ20:19~25)
- ⑥トマスを含めた使徒たちに(ヨハ20:26~31)
- ⑦ガリラヤ湖畔で7人の弟子たちに(ヨハ21章)
- ⑧500人以上の信者たちに(1コリ15:7)
- ⑨ヤコブに(1コリ15:7)
- ⑩オリーブ山で使徒たちに(使1:3~12)

(3) 今回は、7回目の現れをしてみる(どれくらいの時間の間隔があるか不明)。

- ①ヨハ21章は、追記の章である。
- ②ペテロの回復は、初代教会にとっては重要なテーマであった。

(4) A. T. ロバートソンの調和表

§180 ガリラヤ湖畔での7人の弟子たちへの現れ

ヨハ21:1~25

2. アウトライン

- (1) 岸辺に立つイエス(1~14節)
- (2) ペテロを回復するイエス(15~17節)
- (3) ペテロの死を予告するイエス(18~23節)
- (4) 締めくくりの言葉(24~25節)

3. 結論:

- (1) 「愛」という動詞の使用法について
- (2) その後のペテロの歩み
- (3) 霊的回復について

イエスによる霊的回復について考えてみる。

I. 岸辺に立つイエス (1~14 節)

1. 1 節

Joh 21:1 この後、イエスはテベリヤの湖畔で、もう一度ご自分を弟子たちに現された。その現された次第はこうであった。

- (1) ついに弟子たちは、ガリラヤに帰還した。
 - ①そこでイエスは弟子たちの前に姿を現された。これで、3度目である。
- (2) この時の弟子たちの心情を理解しておこう。
 - ①エルサレムでは、驚くべき出来事を息つく間もなく体験した。
 - ②勝利の入城→メシア的王国への期待→ユダの裏切り→逮捕の危険→リーダーであるペテロによる3度の拒否→イエスの死→復活→2度に渡るイエスの現れ
 - ③故郷に戻った彼らは、間違いなく混乱し、将来に不安を覚えていた。

2. 2~3 節

Joh 21:2 シモン・ペテロ、デドモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナのナタナエル、ゼベダイの子たち、ほかにふたりの弟子がいっしょにいた。

Joh 21:3 シモン・ペテロが彼らに言った。「私は漁に行く。」彼らは言った。「私たちもいっしょに行きましょう。」彼らは出かけて、小舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。

- (1) 弟子たちは7人いた。
 - ①7人がとりあえず一緒に住んでいたのであろう。
 - ②ペテロの唐突な提案は、かなりの時間の経過を感じさせるものである。
- (2) ペテロがある提案をした。
 - ①「私は漁に行く」 = 「私は漁師に戻る」
 - ②自分は失敗者だという意識があったであろう。
 - ③家族を支えなければならない。食べる心配をしなければならない。
 - ④ペテロのせっかちな性格が現れている(墓に最初に入ったのも彼であった)。
 - ⑤他の6人の弟子たちも合流した。ペテロのリーダーシップの証明である。

(3) その夜は何もとれなかった。

①神の摂理が働いていた。

3. 4～6節

Joh 21:4 夜が明けそめたとき、イエスは岸べに立たれた。けれども弟子たちには、それがイエスであることがわからなかった。

Joh 21:5 イエスは彼らに言われた。「子どもたちよ。食べる物がありませんね。」彼らは答えた。「はい。ありません。」

Joh 21:6 イエスは彼らに言われた。「舟の右側に網をおろしなさい。そうすれば、とれます。」そこで、彼らは網をおろした。すると、おびただしい魚のために、網を引き上げることができなかった。

(1) イエスは岸辺に立たれたが、弟子たちはそれがイエスだと分からなかった。

①まだ夜が明けきっていなかったのか、あるいは、距離があったのか。

(2) イエスは「子どもたちよ」と呼びかけ、船の右側に網をおろすようにと助言した。

①船の右側に網をおろすのは、通常の方法ではない。

②その助言に従うと、おびただしい魚がとれた。

③網を引き上げることができないほどの大魚であった。

④最初に召命を受けた時のことを思い出させるものであった(ルカ5:1～11)。

4. 7～8節

Joh 21:7 そこで、イエスの愛されたあの弟子がペテロに言った。「主です。」すると、シモン・ペテロは、主である聞いて、裸だったので、上着をまとい、湖に飛び込んだ。

Joh 21:8 しかし、ほかの弟子たちは、魚の満ちたその網を引いて、小舟でやって来た。陸地から遠くなく、百メートル足らずの距離だったからである。

(1) 最初にそれがイエスだと気づいたのは、ヨハネである。

①イエスの復活を最初に信じたのもヨハネであった。

(2) ペテロは、上着をまとい湖に飛び込み、泳いで岸に向かった。

①衝動的に行動するペテロ

②ほかの弟子たちは、網を上げないで小舟で引いて岸にたどり着いた。

*岸までは百メートル足らずの距離であった。

5. 9～11節

Joh 21:9 こうして彼らが陸地に上がったとき、そこに炭火とその上に載せた魚と、パンがあ

るのを見た。

Joh 21:10 イエスは彼らに言われた。「あなたがたの今とった魚を幾匹か持って来なさい。」

Joh 21:11 シモン・ペテロは舟に上がって、網を陸地に引き上げた。それは百五十三匹の大きな魚でいっぱいであった。それほど多かったけれども、網は破れなかった。

- (1) 岸には、朝食が用意されていた。
 - ①炭火の上で魚が焼かれていた。パンもあった。
- (2) 弟子たちがとった魚も炭火の上に載せられた。
 - ①イエスは、弟子たちの働きを評価された。
- (3) 舟に乗りこんで、網を陸地に引き上げたのはペテロであった。
 - ①他の弟子たちにできなかったことを、ペテロがした。
 - ②ペテロのリーダーシップが暗示されている。
- (4) これは、小規模な奇跡である。
 - ①153匹という数
 - *比喩的解釈ではなく、字義通りの解釈がよい。
 - *漁師仲間では、魚の数を数えて、均等に分配する習慣があった。
 - ②網は破れなかった。
 - *イエスは、網が破れるようなことをお命じになることはない。

6. 12~14節

Joh 21:12 イエスは彼らに言われた。「さあ来て、朝の食事をしなさい。」弟子たちは主であることを知っていたので、だれも「あなたはどなたですか」とあえて尋ねる者はいなかった。

Joh 21:13 イエスは来て、パンを取り、彼らにお与えになった。また、魚も同じようにされた。

Joh 21:14 イエスが、死人の中からよみがえってから、弟子たちにご自分を現されたのは、すでにこれで三度目である。

- (1) イエスは弟子たちを食事に招いた。
 - ①弟子たちは、イエスだと分かったので「あなたはどなたですか」と尋ねなかった。
- (2) イエスがパンと魚を彼らにお与えになった。
 - ①これは、ユダヤ的には和解の食事であり、弟子たちに強い印象を残した。
 - ②使 10 : 39~41 (コルネリオに対するペテロのメッセージ)

Act 10:39 私たちは、イエスがユダヤ人の地とエルサレムとで行われたすべてのことの証人

です。人々はこの方を木にかけて殺しました。

Act 10:40 しかし、神はこのイエスを三日目によみがえらせ、現れさせてくださいました。

Act 10:41 しかし、それはすべての人々にではなく、神によって前もって選ばれた証人である私たちにです。私たちは、イエスが死者の中からよみがえられて後、ごいっしょに食事をしました。

II. ペテロを回復するイエス (15～17 節)

1. 15 節

Joh 21:15 彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなただを愛することは、あなたをご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの小羊を飼いなさい。」

(1) イエスは、「あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか」と聞いた。

①ペテロは、「私があなただを愛することは、あなたをご存じです」と答えた。

②他者との比較はなくなっている。

(2) イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と命じた。

①「小羊」とは、霊的の幼い信者のことである。

②ここでは、漁師のイメージから、羊飼いのイメージへの移行がある。

③伝道の強調から、牧会の強調への移行である。教会の誕生が前提となっている。

④「飼う」は「ボスコウ」(食べさせる)である。

2. 16 節

Joh 21:16 イエスは再び彼に言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなただを愛することは、あなたをご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を牧しなさい。」

(1) イエスは、「あなたはわたしを愛しますか」と聞かれた。

①イエスも、他者との比較をやめた。

②ペテロの答えは、最初と同じであった。

(2) イエスは、「わたしの羊を牧しなさい」と命じた。

①「わたしの羊」とは、信者一般である。

②「牧する」は「ポイマイノウ」(羊飼いの仕事をする)である。

3. 17節

Joh 21:17 イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ。あなたはいつさいのことをご存じです。あなたは、私があなを愛することを知っておいでになります。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」

- (1) イエスは、2度目と同じく「あなたはわたしを愛しますか」と聞かれた。
 - ①イエスが3度ペテロに聞いたのは、ペテロがイエスを3度拒否したからである。
 - ②ペテロは、それに心を痛めた。
 - ③ペテロがイエスを拒否したのは、炭火に当たっていた時である。
 - ④ペテロは、炭火の前でイエスを愛しますと3度告白した。

- (2) イエスは、「わたしの羊を飼いなさい」と命じた。
 - ①「わたしの羊」とは、信者一般である。
 - ②「飼う」は、第1の命令と同じく「ボスコウ」(食べさせる)である。

III. ペテロの死を予告するイエス (18～23節)

1. 18～19節

Joh 21:18 まことに、まことに、あなたに告げます。あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます。」

Joh 21:19 これは、ペテロがどのような死に方をして、神の栄光を現すかを示して、言われたことであつた。こうお話しになってから、ペテロに言われた。「わたしに従いなさい。」

- (1) 「まことに、まことに、あなたに告げます」
 - ①厳肅な内容の預言が語られる。
 - ②ペテロは、老年になると苦難に遭遇する。殉教の死の予告である。
 - ③ペテロは、殉教の死を通して主イエスへの愛を示すのである。

- (2) イエスは、「わたしに従いなさい」と言われた。
 - ①ペテロは、その命令に最後まで従った。
 - ②ペテロが十字架に逆さに吊るされて死んだという伝承がある。

2. 20～22節

Joh 21:20 ペテロは振り向いて、イエスが愛された弟子があとについて来るのを見た。この弟子はあの晩餐のとき、イエスの右側にいて、「主よ。あなたを裏切る者はだれですか」と言っ

た者である。

Joh 21:21 ペテロは彼を見て、イエスに言った。「主よ。この人はどうですか。」

Joh 21:22 イエスはペテロに言われた。「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか。あなたは、わたしに従いなさい。」

- (1) ペテロはヨハネのことが気になったので、「この人はどうですか」と尋ねた。
 - ①恐らく、イエスは再臨の話をされていたのであろう。
 - ②「彼は生きていて再臨を見るようになるのでしょうか」と聞いた可能性がある。
- (2) イエスはペテロを叱責された。
 - ①ヨハネに何が起ころうとも、それはあなたには無関係である。

3. 23 節

Joh 21:23 そこで、その弟子は死なないという話が兄弟たちの間に行き渡った。しかし、イエスはペテロに、その弟子が死なないと言われたのでなく、「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか」と言われたのである。

- (1) ヨハネは、イエスのことばに関する誤解を解いている。
 - ①イエスは、ヨハネが再臨まで生き延びると言われたのではない。
 - ②ただ、「あなたには何のかかわりあるか」と言われたのである。

IV. 締めくくりの言葉 (24~25 節)

1. 24 節

Joh 21:24 これらのことについてあかしした者、またこれらを書いた者は、その弟子である。そして、私たちは、彼のあかしが真実であることを、知っている。

- (1) これはヨハネ自身の言葉とも、初代教会の誰かの言葉とも解釈可能である。
 - ①ヨハネの福音書の内容が真実であることを証言している。

2. 25 節

Joh 21:25 イエスが行われたことは、ほかにもたくさんあるが、もしそれらをいちいち書きしるすなら、世界も、書かれた書物を入れることができまい、と私は思う。

- (1) これは、ヨハネの言葉であろう。
 - ①福音書に記された情報は、ほんの一部である。

結論:

1. 「愛」という動詞の使用法について

- (1) 「アガパオウ」と「フィレオウ」という動詞
- (2) 2つの動詞に使い分けは、文学形式上の手法と考えられる。
- (3) トーラーは、すべてポエムである。

2. その後のペテロの歩み

- (1) 「わたしの小羊を飼いなさい」

①ペテロは、1 ペテを書いてこの命令を果たした。

1Pe 2:1 ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、

1Pe 2:2 生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。

- (2) 「わたしの羊を牧しなさい」

①ペテロは使徒たちの中でリーダーとなり、初代教会で群れを監督した。

- (3) 「わたしの羊を飼いなさい」

①ペテロは、2 ペテを書いてこの命令を果たした。

②2 ペテの内容は、みことばの乳以上のものである。

2Pe 1:4 その栄光と徳によって、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。

2Pe 1:5 こういうわけですから、あなたがたは、あらゆる努力をして、信仰には徳を、徳には知識を、

2Pe 1:6 知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、

2Pe 1:7 敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。

3. 霊的回復について

- (1) 主イエスは私たちのために和解の食事を用意してくださる。

①「私を愛するか」と聞いてくださる。

②愛の証明を迫ってくださる。

- (2) 霊的回復がもたらす変化

①キリストの助けなしには、収穫はない(特に伝道における霊的収穫)。

②神への奉仕は、愛がその動機でなければならない。

③他の働き人との比較は無用である。

「復活(7)」

マタ 28 : 16~20、1 コリ 15 : 7

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①聖書は、復活のイエスの出現を10回記録している。
- ②復活の当日(日曜日)に5回、それ以降の40日間に5回。

(2) 復活のイエスの顕現

- ①マグダラのマリアに(マコ 16 : 9~11)
- ②女たちに(マタ 28 : 8~10)
- ③エマオ途上の2人の弟子たちに(ルカ 24 : 13~32)
- ④ペテロに(ルカ 24 : 34)
- ⑤トマスを除いた使徒たちに(ヨハ 20 : 19~25)
- ⑥トマスを含めた使徒たちに(ヨハ 20 : 26~31)
- ⑦ガリラヤ湖畔で7人の弟子たちに(ヨハ 21 章)
- ⑧500人以上の信者たちに(1 コリ 15 : 6)
- ⑨ヤコブに(1 コリ 15 : 7)
- ⑩オリーブ山で使徒たちに(使 1 : 3~12)

(3) 今回は、8回目と9回目現れを見てみる。

(4) A. T. ロバートソンの調和表

§ 181 500人への現れ

マコ 16 : 15~18、マタ 28 : 16~20、1 コリ 15 : 6

§ 182 ヤコブへの現れ

1 コリ 15 : 7

2. アウトライン

- (1) 大宣教命令の背景
- (2) 大宣教命令の内容
- (3) ヤコブへの現れ

3. 結論

- (1) マコ 16 : 16~18

(2) 大宣教命令の規模

大宣教命令について考えてみる。

I. 大宣教命令の背景(8番目の現れ)

1. 16節

Mat 28:16 しかし、十一人の弟子たちは、ガリラヤに行って、イエスの指示された山に登った。

- (1) 11人の弟子たちは、イエスの指示された山に登った。
 - ①これは、ヨハネ21章の「和解の食事」の後の出来事である。
 - ②マタイは、いくつかの重要な出来事を省略している。
 - *イエスが10人の弟子に現れたこと(その日)
 - *イエスがトマスに現れたこと(8日後)
 - *「和解の食事」(何日後かは分からない)
 - ③マタイは、弟子たちがついにガリラヤに行ったことを記している。
 - ④イエスが指示された山がどこかは、明示されていない。
 - ⑤イエスが事前にどの山であるかを指示しておられた。
 - ⑥ガリラヤ地方の信者たちは、その情報を知って事前に集まっていた。
 - ⑦ガリラヤでの復活のイエスの現れは、数々の現れのクライマックスである。

- (2) 1コリ15:6に補完的信息がある。

1Co 15:6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。

- ①キリストは500人以上の兄弟たちに同時に現れた。
 - *キリストを見たというのは、幻ではない。
- ②その中の大多数の者は今なお生き残っている。
 - *確かめたければ、確かめることが可能である。
- ③この500人の中に11弟子も含まれていた。

2. 17節

Mat 28:17 そして、イエスにお会いしたとき、彼らは礼拝した。しかし、ある者は疑った。

- (1) 礼拝した。「プロスクネオウ」。ひれ伏すこと。
 - ①弟子たちがイエスを礼拝しているのは、これが初めてである。
 - ②11人の弟子たちにとっては、復活のイエスが神であるのは当然のことである。

(2) しかし、ある者は疑った。

- ①これは、11人の弟子たちへの言及ではない。
- ②初めて復活のイエスを見た者は、当惑したのである。
- ③11人の弟子たちも、最初はそうであった。
- ④復活のイエスを見て疑った人がいたというのは、真実味のある記録である。

II. 大宣教命令の内容

1. 18節

Mat 28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。」

(1) イエスは彼らに近づき、驚くべき宣言をされた。

- ①権威。「エクスーシア」。正式な権利や力のこと。
- ②復活のイエスは、父なる神からその権威を受けた。

(2) 権威に新しい意味が付加された。

- ①地上生涯において、イエスは多くのしるしをもってご自身の権威を示された。
- ②ここでは、復活のイエスがすでに天に座している者として語っている。
- ③父から与えられた権威とは、天と地を支配する権威である。
- ④天にある資源や力を自由に用いることができる。限界のない権威である。

(3) この権威に基づいて、イエスは弟子たちに大宣教命令を与えるのである。

- ①この宣言によって、疑った人たちの疑いは氷解した。
- ②金も、軍勢も、馬も、弓矢もない500人の集団が、世界征服に着手する。
- ③彼らは何も持っていなかったが、すべてを持っていた。
- ④それが現実化するのが、ペンテコステの出来事である。

2. 19～20節 a

Mat 28:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、

Mat 28:20a また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。

(1) 大宣教命令のゴールは弟子作りである。

- ①これが命令形の動詞である。
- ②「行く」、「バプテスマを授ける」、「教える」はすべて分詞形である。

- ③あらゆる国の人々が対象である。異邦人も対象に含まれる。
 - *異邦人をユダヤ人にするのではない。
- ④これがキリストの世界宣教計画である。
- ⑤弟子たちがそれを理解するのに、エルサレム会議が必要であった。

(2)「行く」

- ①出て行って福音を伝える。あるいは、出ていくようになるからという意味。
- ②福音の内容は、パウロが1コリ15:3~4で教えているものと同じである。

(3)「バプテスマを授ける」

- ①バプテスマは救いの条件ではない。
- ②これは、弟子となるための過程である。
- ③これは、キリストの命令である。
- ④「父、子、聖霊の御名によって」。「御名」は単数形である。
- ⑤バプテスマによって、信者は三位一体の神と同一化する。
 - *神は父である。
 - *イエス・キリストは主であり救い主である。
 - *聖霊は内に住み、力を与え、教えてくださる助け主である。

(4)「教える」

- ①信者にするだけでは不十分である。
- ②聖書全体、特にキリストの命令について教える。
- ③弟子訓練のゴールは、キリストに似た弟子を育てることである。
- ④そのためには、組織的な学びが必要である。

3. 20節b

Mat 28:20b 見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

(1) 大宣教命令にともなう約束

- ①孤独な戦いを繰り広げるのではない。
- ②いつも、復活のキリストがともに戦ってくださる。

(2)「世の終わりまで」

- ①キリストの再臨までという意味である。
- ②全世界に福音が伝えられたある時点で、キリストの再臨が起こる。
- ③この約束は、キリストの再臨の約束まで含んでいる。

Ⅲ. ヤコブへの現れ(9番目の現れ)

1. 1コリ 15:7

1Co 15:7 **その後、キリストはヤコブに現れ、それから使徒たち全部に現れました。**

(1) ヤコブという名の使徒

①ヨハネの兄のヤコブ(使徒たちの中では最初の殉教者となった)

②アルパヨの子ヤコブ

③1コリ 15:7のヤコブは、イエスの弟である。

(2) イエスの弟たちは、以前にはイエスを信じていなかった。

①使 1:14では信者になっている。

Act 1:14 **この人たちは、婦人たちやイエスの母マリヤ、およびイエスの兄弟たちとともに、みな心を合わせ、祈りに専念していた。**

②ヤコブは、復活のイエスを見て信者になった。

2. その後のヤコブ

(1) エルサレム教会の長となった。

①使 12:17、15:13、21:18

②ヤコブの手紙を書いた。紀元49年。

(2) 使徒の賜物を与えられた。

①第1グループの使徒は12人いた。

*ユダが抜けた時、マッテヤが選ばれた。

*使徒の条件は、公生涯の最初から召天まで目撃したこと。

②第2グループの使徒は3人いた。

*パウロ、ヤコブ、バルナバ

*条件は、復活のイエスの出あったこと。

*1コリ 9:1のパウロの言葉

1Co 9:1 **私には自由がないのでしょうか。私は使徒ではないのでしょうか。私は私たちの主イエスを見たのではないのでしょうか。あなたがたは、主にあって私の働きの実ではありませんか。**

結論

1. マコ 16:16~18

Mar 16:16 信じてバプテスマを受ける者は、救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。

Mar 16:17 信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばを語り、

Mar 16:18 蛇をもつかみ、たとえ毒を飲んでも決して害を受けず、また、病人に手を置けば病人はいやされます。」

- (1) 初期の最も信頼できる写本には出てこない。
 - ①この部分に基づいて教理を打ち立てるべきではない。
 - ②これを用いて、バプテスマを受けなければ救われないと教えてはならない。
- (2) 信者に伴う5つのしるし
 - ①キリストの名によって悪霊を追い出す。
 - ②新しいことばを語る。恐らく異言であろう。
 - ③蛇をつかんでも害を受けない。
 - ④毒を飲んでも害を受けない。
 - ⑤病人に手を置けば病人はいやされる。
- (3) 使徒行伝では、①、②、③、⑤は起こっているが、④は起こっていない。
- (4) しかし、これらのしるしは、すべての信者が体験するものではない。

2. 大宣教命令の規模(4つの「all」がある)

- (1) いっさいの権威「all authority」
- (2) あらゆる国の人々「all nations」
- (3) すべてのこと「all things」
- (4) いつも「always」

3. 「私は、本当の上司を見つけた」

「復活(8)」

ルカ 24:44~49、使 1:3~12

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ① 聖書は、復活のイエスの出現を 10 回記録している。
- ② 復活の当日(日曜日)に 5 回、それ以降の 40 日間に 5 回。

(2) 今回は、10 回目現れを見てみる。

(3) A. T. ロバートソンの調和表

§ 183 弟子たちへの現れともうひとつの命令

ルカ 24:44~49、使 1:3~8

§ 184 昇天

マコ 16:19、20、ルカ 24:50~53、使 1:9~12

2. アウトライン

- (1) イエスによる聖書の解き明かし
- (2) イエスの最後の命令
- (3) イエスの昇天

3. 結論

- (1) 昇天の意義
- (2) 再臨の希望

昇天の意義と再臨の希望について考えてみる。

I. イエスによる聖書の解き明かし(ルカ 24:44~49)

1. 44 節

Luk 24:44 さて、そこでイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。」

- (1) ここでの教えは、復活から昇天までの間に語られたことの要約であろう。
- (2) 「モーセの律法と預言者と詩篇」
 - ① 旧約聖書の 3 区分である。
 - ② 「律法と預言者」という場合もある。つまり、旧約聖書全体である。

③イエスは、ご自身の生涯が旧約聖書の成就であることを教えた。

2. 45～48節

Luk 24:45 そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、

Luk 24:46 こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、

Luk 24:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。

Luk 24:48 あなたがたは、これらのことの証人です。

(1) イエスは聖書を悟らせるために、彼らの心を開いた。

①イエスがメシア預言を成就されたことは、ユダヤ人の目からは隠されていた。

②弟子たちも霊的に盲目であった。

(2) 当時、新約聖書はまだ存在していなかった。

①イエスは、旧約聖書からご自身がメシアであることを証明された。

②新約の教会は、旧約聖書の約束の上に立っている。

③旧約聖書を軽視する者は、イエスの教えを否定していることになる。

④その人の信仰は、根なし草のようなものである。

(3) イエスが解き明かす旧約聖書のポイント

①キリストは苦しみを受ける。

*詩 22 : 1～21、イザ 53 : 1～9

②死んで三日目によみがえる。

*詩 16 : 10、ヨナ 1 : 17、ホセ 6 : 2

③イエスの名による宣教が始まる。

*罪の赦しを得させる悔い改めのメッセージ

*エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。

(4) 弟子たちは、イエスが復活したことの証人である。

①証人として出ていくためには、上からの力が必要である。

3. 49節

Luk 24:49 さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあなたがたに送ります。

あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」

(1) 父の約束

①聖霊が注がれるという約束である。

②これもまた旧約聖書に預言されている。

*イザ44:3、エゼ36:27、ヨエ2:28

(2) 父の約束が成就するまでは、都にとどまれというのが、最後の命令である。

II. イエスの最後の命令(使1:3~8)

1. 3節

Act 1:3 イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現れて、神の国のことを語り、多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。

(1) イエスの教えは、昇天まで続いた。

①40日の間とは、復活から昇天までの期間である。

(2) テーマは、「神の国」である。

①「神の国」のプログラムについての教えである。

②メシアによる「メシア的王国」の提供はユダヤ人たちによって拒否された。

③「メシア的王国」は延期され、「奥義としての王国」に置き代わった。

*教会時代とほぼ同義である。

*キリスト教界を指す言葉である。

2. 4~5節

Act 1:4 彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。」

Act 1:5 ヨハネは水でバプテスマを受けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」

(1) イエスの最後の命令

①「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい」

②ヨハネによる水のバプテスマと聖霊のバプテスマが対比されている。

(2) 聖霊のバプテスマ

①「聖霊のバプテスマ」という名詞があるのではない。

②口語訳

Act 1:5 すなわち、ヨハネは水でバプテスマを受けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを受けられるであろう。」

③聖霊は、信者をキリストの教会につなげる働きをする。

1Co 12:13 なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。

④これは、教会時代における聖霊の特別な働きである。

⑤また聖霊は、キリストの命令を実行するための力を信者に与える。

3. 6～7節

Act 1:6 そこで、彼らは、いっしょに集まったとき、イエスにこう尋ねた。「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか。」

Act 1:7 イエスは言われた。「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。」

(1) 弟子たちは、メシア的王国の実現に興味を示している。

①メシア的王国は千年王国とも呼ばれる。

②聖霊が注がれるという約束を聞いた弟子たちは、メシア的王国が近いと感じた。

③イエスは、地上に文字通りの王国が成就することは否定していない。

(2) イエスは、いつとか、どんなときとかいうことは、知らなくてよいと言われた。

①父がご自身の権威をもって定めておられる。

②携挙や再臨の時を予告することは、イエスのことばに反している。

4. 8節

Act 1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」

(1) 聖霊を受けたときに、弟子たちの宣教は地理的に拡大して行く。

①エルサレム

②ユダヤ

③サマリヤ

④地の果て(異邦人世界のこと)

*イザ49:5～6では、「地の果て」が異邦人世界を指している。

III. イエスの昇天(使1:9～12)

1. 9節

Act 1:9 こう言ってから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなく

なされた。

- (1) ルカ 24 : 50 によれば、その場所はベタニヤである。
 - ①オリーブ山の最高地点に昇天記念教会(ギリシア正教)が建っている。
 - ②ベタニヤは、約2.5キロメートル東である。
- (2) イエスは、シャカイナグローリーとともに天に昇られた。

2. 10~11 節

Act 1:10 イエスが上って行かれるとき、弟子たちは天を見つめていた。すると、見よ、白い衣を着た人がふたり、彼らのそばに立っていた。

Act 1:11 そして、こう言った。「ガリラヤの人たち。なぜ天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。」

- (1) 弟子たちは天を見つめていた。
 - ①驚き、礼拝、悲しみの感情
- (2) 白い衣を着たふたりの人
 - ①天使である。墓で現れた天使の可能性が高い(ルカ 24 : 4)。
 - ②弟子たちに慰めの言葉を語った。
 - ③イエスの再臨を予告した。

3. 12 節

Act 1:12 そこで、彼らはオリーブという山からエルサレムに帰った。この山はエルサレムの近くにあつて、安息日の道のりほどの距離であつた。

- (1) 彼らは、オリーブ山からエルサレムに帰った。
 - ①距離は近い。
 - ②「安息日の道のり」とは、約900メートル。
 - ③父の約束を待つためである。

- (2) ルカ 24 : 52~53

Luk 24:52 彼らは、非常な喜びを抱いてエルサレムに帰り、

Luk 24:53 いつも宮にいて神をほめたたえていた。

結論

1. 昇天の意義

- (1) 昇天によって、イエスの地上での奉仕は完了した。
①ヨハ14:28
- (2) イエスは、父なる神の右の座に座された。
①使2:32~35
- (3) イエスは、天において大祭司としての働きを開始された。
①へブ4:14~16
- (4) イエスの地上での働きは、弟子たちの手に委ねられた。
①使1:8
- (5) 聖霊降臨の条件が整った。
①エペ4:8~10

2. 再臨の希望

- (1) イエスはオリーブ山から昇天された。
①イエスはオリーブ山に立たれる。

Zec 14:4 その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山は、その真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ移り、他の半分は南へ移る。

- (2) イエスは肉体をもって昇天された。
①イエスは肉体をもって戻って来られる。

Mal 3:1 「見よ。わたしは、わたしの使者を遣わす。／彼はわたしの前に道を整える。／あなたがたが尋ね求めている主が、／突然、その神殿に来る。／あなたがたが望んでいる契約の使者が、／見よ、来ている」と万軍の【主】は仰せられる。

- (3) イエスは目に見える形で昇天された。
①イエスは目に見える形で戻って来られる。

Mat 24:30 そのとき、人の子のしるしが天に現れます。すると、地上のあらゆる種族は、悲しみながら、人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見るのです。

- (4) イエスは雲に包まれて昇天された。
①イエスは天の雲に乗って戻って来られる。マタ24:30
- (5) イエスは栄光に包まれて昇天された。
①イエスは栄光を帯びて戻って来られる。マタ24:30